Panasonic

ハイハイ店番10 品番 EL3110K

施工説明書

EL3110K

- 正しい施工をしていただくため、必ずお読みください。
- 施工するには、電気工事士の資格が必要です。
- 施工後、必ず施主様に商品説明をしていただき、取扱説明書と施工説明書などをお渡しください。
- 保証書に必ず必要事項を記入してください。
- 万一、施工説明書にしたがわず施工された場合の事故や故障などについては責任を負い兼ねることがあります。

付属品

- 取付用なべタッピンネジ(4×25)(店番本体のボディに付属)…2本
- 取付用なべ小ネジ(M4×8)(投・受光器取付用)…2本
- 取付用なべ小ネジ(M4×10)(投・受光器取付用)…2本
- 取付用なべタッピンネジ(4×16)(化粧フード取付用)…4本
- 取付用なべ小ネジ(M4×10)(化粧フード取付用)…8本
- Uボルト…4コ
- 減光板…1コ
- 取付金具…2コ
- パナソニック電工お客様ご相談窓口のご案内…1枚
- 取扱説明書…1枚
- 保証書…1枚
- 施工説明書(本紙)…1枚

安全上のご注意

■必ずお守りください

⚠警告

必ず守る	必ず電源(AC100V)を切った状態で施工する。 活線工事は感電や故障の原因となります。
必ず守る	AC100V用電源線は確実に締め付ける。 締め付けが不十分な場合、発熱するおそれがあり、火災や焼損の原因となります。
禁止	水や雨のかかる場所(屋外など)および湿気の多い場所(浴室など)には設置しない。 感電の原因となります。
禁止	小勢力端子にAC100V用電源線を接続しない。 発火・発煙の原因となります。
分解禁止	絶対に分解(指定以外の分解)したり、修理・改造しない。 感電の原因となります。

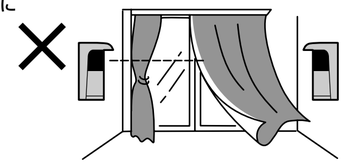
施工上のご注意

- 店番本体は屋内専用です。屋外には設置しないでください。
- 店番本体のAC100V電源を入れてから、正常に検知できる状態になるまで約5秒かかります。
- 検知器および押ボタンなどの小勢力配線は、AC100V配線から50cm以上離してください。
- 配線の途中で電線接続する場合は、ハンダ付処理か圧着スリーブ処理を行い、その後テーピングで絶縁してください。
  (電線をよじっただけでは、接触不足や、長期間使用中に電線表面が酸化し接触不良をおこし、誤作動や動作しないなどの原因となります。)
- 接続機器については、その商品に付属の説明書をよくお読みください。

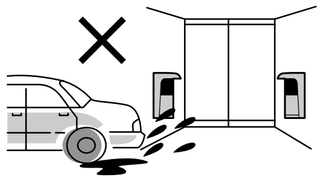
■次のような場所には設置しないでください。(誤動作や故障の原因となります。)

●カーテンなど検知エリア内に動くものがある場所

(検知エリアをカーテンが遮らないように取り付けてください。)

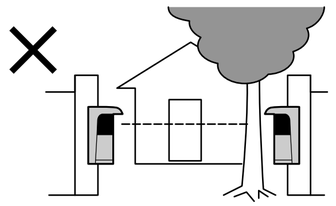


●汚水や海水のかかる場所

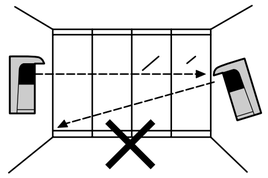


●検知エリア内に障害物のある場所

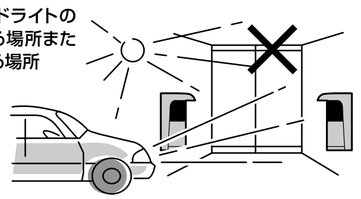
〔ガラスの外は検知しません。〕



●人や物が当たる場所 ぐらつきやすい不安定な場所

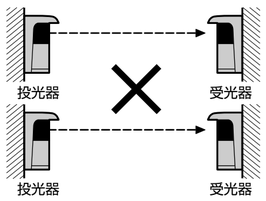


●受光器に太陽光やヘッドライトの直射光、反射光が当たる場所また強力な電気的雑音が入る場所

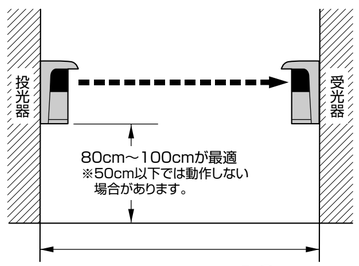


●2台並行して取り付ける場合は投光器および受光器を同じ側に取り付けないでください

(同じ側に取り付けると、もう一方の投光器の光が回り込み、動作しない場合があります。)



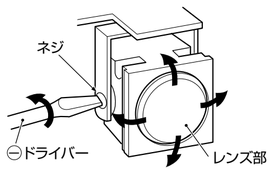
■検知エリアの説明

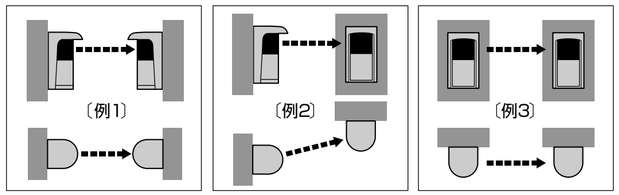


- 投・受光器の有効検知距離は約10mです。
  (必ずこの範囲で使用してください。)

■投・受光器の取付位置

- 投・受光器のレンズ部はネジをゆるめると、上下(40°)、左右(180°)に動き、各種方向(例1～3)の取り付けができます。





配 線 方 法

- 接続する商品は別途お買い求めください。
- 接続機器については、その商品に付属の説明書をよくお読みください。

配線上のご注意

- 音色の選択ができます。4端子への配線はお好みの音色に合わせて行ってください。
- ハイハイ店番4熱線式検知器(EL230421K)(別売)を接続している4端子には、ほかの検知器および受光器を接続しないでください。
- 来客報知用押ボタンは検知器および受光器が接続されている4端子へは接続しないでください。
  (検知器および受光器と押ボタンの音色を区別するため)
- 熱線式検知器は赤外線式検知器の接続していない4端子に各2台まで接続できます。

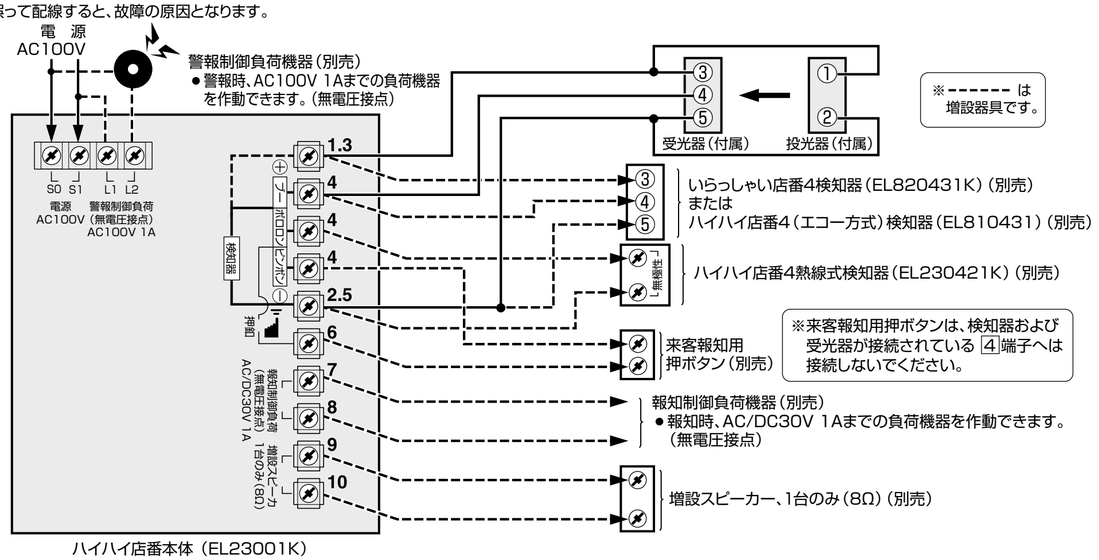
■ハイハイ店番本体と検知器の使用条件

検知器の使用条件	接続可能台数				
	赤外線式検知器			熱線式検知器	
	ハイハイ店番4(エコー方式)検知器(EL810431)	いらっしゃい店番4検知器(EL820431K)	投光器・受光器(EL311051,EL311071 / EL313051,EL313071)	ハイハイ店番4熱線式検知器(EL230421K)	熱線式検知器4(EK3410,EK3411 / EK3430) 熱線式検知器(EK3423K,EK3444K / EK3464K,EK3481K / EK3453K)
同じ検知器を使用する場合	2台まで	2台まで	2セットまで	6台まで(4端子へ各2台)	6台まで(4端子へ各2台)
赤外線式検知器を1台または1セット使用する場合	1台まで	1台まで	1セットまで	4台まで(4端子へ各2台)	4台まで(4端子へ各2台)

(2008年7月現在)

■配 線 図

注 ③④⑤の配線には極性があります。端子番号を合わせてください。
誤って配線すると、故障の原因となります。

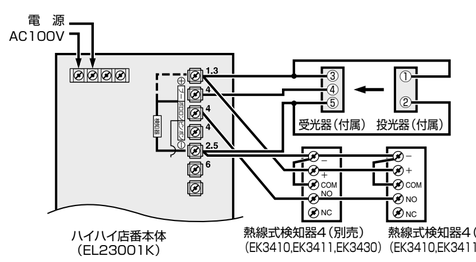


ハイハイ店番本体(EL23001K)

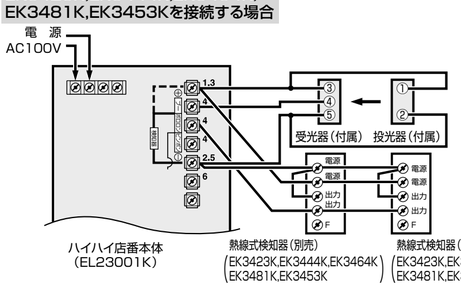
熱線式検知器4(別売)・熱線式検知器(別売)の接続方法

※2台接続する場合は、並列接続してください。

EK3410,EK3411,EK3430を接続する場合



EK3423K,EK3444K,EK3464K, EK3481K,EK3453Kを接続する場合



■配線可能距離

注 報知・警報制御負荷端子への配線は接続機器の配線可能距離にしたがってください。

配線区間 \ 使用電線	0.5㎟ または φ0.8	0.75㎟ または φ1.0	1.25㎟ または φ1.2	2.0㎟ または φ1.6
店番本体～検知器	50m			
店番本体～投・受光器、来客報知用押ボタン	30m	50m	80m	130m
店番本体～増設スピーカー	100m			

■音色の選択

	音 色	音量(可変)	鳴動時間
報知側	ピンポン	65dB以上	約3秒
	ボロロン	65dB以上	約6秒
	ブー	65dB以上	約2秒
警報側	ピーポー	70dB以上(可変不可)	約3～60秒(可変)または連続

来客報知用押ボタンを押した場合

- 報知音は店番本体のモードに関係なく4端子で選択された音が鳴ります。また、報知制御負荷に接続した機器も動作します。

増設スピーカーを接続した場合

- 増設スピーカーは、店番本体と同じ音色で鳴ります。

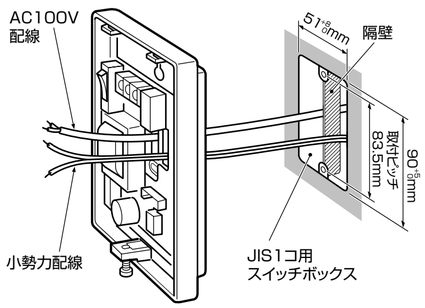
店番本体の取付方法

ボックスなし取付の場合

1.カバー止めネジをゆるめ、カバーを開ける。
2.コネクタ付リード線をはずす。
3.通線穴に電線を通してボディを付属の取付用なべタッピンネジ（4×25）（2本）で壁面に固定する。
4.電源スイッチを「OFF」側にする。
5.結線する。（配線方法参照）
6.警報時間を設定する。（警報時間の設定方法参照）
7.カバーのコネクタ付リード線をボディのコネクタ受けに差し込む。
8.配線に間違いがないか確認のうえ、電源スイッチを「ON」側にする。
9.カバー上部のフックをボディに引っ掛け、カバーをカバー止めネジで固定する。

ボックス取付の場合

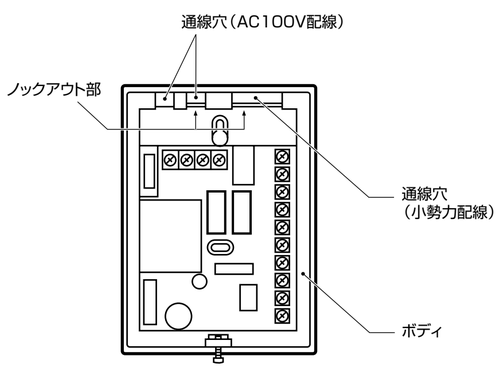
注 AC100V配線と小勢力配線の間には内線規程3102-7により、堅ろうな隔壁を取り付けて絶縁してください。



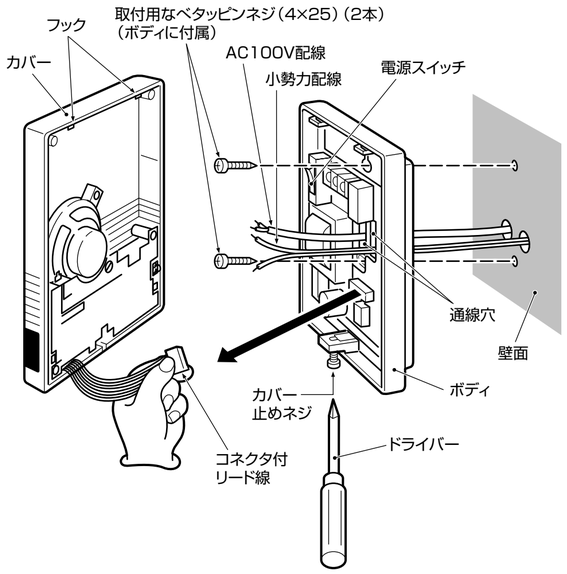
露出配線する場合

- 通線穴を使用してください。
- 配線方向に合わせてノックアウト部をニッパーなどで切り取って配線してください。

注 配線を通線穴に通す場合は、AC100V配線と小勢力配線を分離して別々の通線穴に通してください。



〈カバーをはずした状態〉



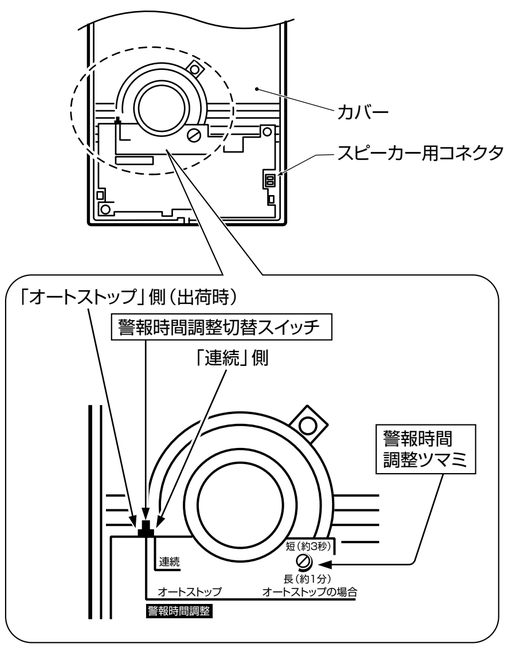
警報時間の設定方法・報知音、警報音の鳴動設定

- **警報時間調整切替スイッチで警報モード時の警報時間の設定ができます。**

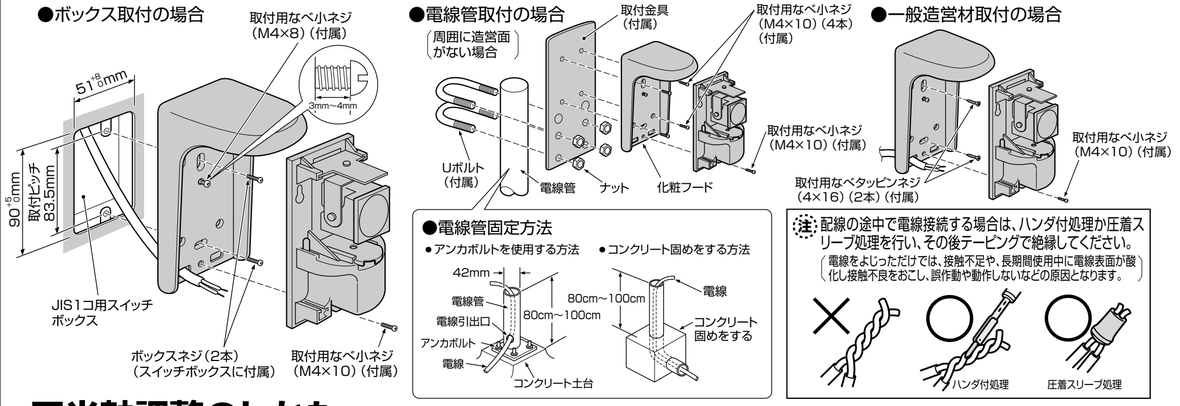
「オートストップ」側…警報時間調整ツマミにより約3～60秒までの可変設定ができます。
「連続」側……連続して鳴動します。

- **店番本体の報知音、警報音を鳴動させない場合**

スピーカー用コネクタを抜いてください。



投光器・受光器の取付方法



■光軸調整のしかた

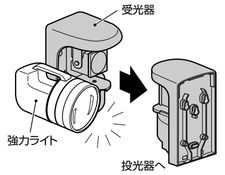
調整時のご注意

- 強力ライトまたは投光機（AC100V　100W以上）と付属の減光板を使って光軸調整を行ってください。
- 日差しの強い屋外では光軸調整が行いにくい場合があります。曇りや夕方の薄暗いときに調整を行ってください。また手や帽子などで焦点板表面を薄暗くすると、光の中心がよくわかり調整しやすくなります。
- 光軸調整は二人で作業すると効率的に調整できます。一人で調整する場合は脚立などに強力ライトまたは投光機を固定して調整を行ってください。

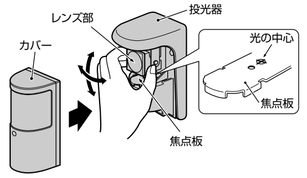
1 投光器を調整する

❶結線完了後、店番本体の電源を入れる。

❷受光器の近く（受光器より30cm以内）から強力ライトなどで投光器に向かって正確に照らす。



❸照らしている光の中心（直径約2mmの輪）が焦点板の「＋」印にくるように投光器のレンズ部を動かして調整し、調整後カバーを取り付ける。

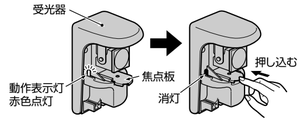


注 手や帽子などでおおって、焦点板表面を薄暗くすると、光の中心がよくわかります。

2 受光器を調整する

❹❷❸と同様に投光器から受光器を照らし、焦点板の「＋」印に光の中心がくるように調整する。

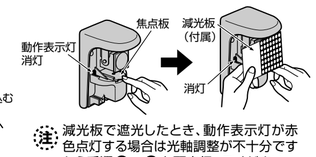
❺受光器の焦点板を押し込み、動作表示灯（赤色）が消灯することを確認する。



注 動作表示灯が消灯しない場合は、手順❶～❺を再度行ってください。

3 調整を確認する

❻受光器の焦点板を押し込んだ状態で付属の減光板を使って遮光しても、動作表示灯が消灯していることを確認し、カバーを取り付ける。



注 減光板で遮光したとき、動作表示灯が赤色点灯する場合は光軸調整が不十分ですから手順❶～❻を再度行ってください。

❼光軸調整後、光線を遮光して店番本体の動作を再確認してください。

■施工後の動作確認方法

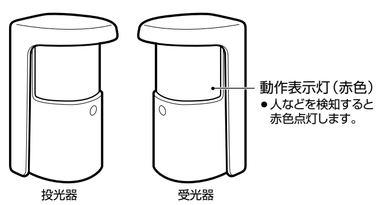
- **電源スイッチを入れる。**

注 電源を入れてから、正常に検知できる状態になるまで約5秒かかります。

- **検知エリア内のどこを通過しても、受光器の動作表示灯および店番本体、接続機器が正しく動作することを確認してください。**

※来客報知用押ボタンが接続されている場合は、来客報知用押ボタンも押して確認してください。

- **必ず店番本体の報知・警報モードの設定をして動作の確認を行ってください。切モードでは検知しても店番本体は動作しません。**



■異常時の点検

状態	点検	処置
全く動作しない	●店番本体の通電表示灯が消灯していませんか。	➡店番本体のカバーをはずし、電源を入れる。
	●店番本体の警報表示と報知表示がいずれも消灯していませんか。	➡警報押ボタンもしくは、報知押ボタンを押す。
	●店番本体と受光器間の配線が断線または、はずれていませんか。	➡断線を直し、ゆるんだ端子を締め付ける。
	●電源を入れてから5秒以上経過していますか。	➡約5秒間待ってから、動作の確認を行う。
誤動作する	●投光器および受光器の検知窓がホコリや水滴で汚れていませんか。	➡やわらかい乾いた布でふき取る。（シンナー、ベンジン、殺虫剤などの化学薬品は商品の表面をいためますので使用しないでください。）
	●受光器の検知窓に投光器からの光線が正しく当たっていますか。	➡投・受光器のカバーをはずし、受光器の動作表示灯が完全に消えるまで受光器（投光器）を動かして、光軸調整を行う。（光軸調整は店番本体の電源スイッチを「ON」側にして行ってください。）
	●店番本体と受光器間の配線のうち④⑤端子間の配線がショートしていませんか。	➡配線のショートを直す。
	●投光器と受光器の間に障害物がありませんか。	➡障害物を取り除く。
	●太陽光の強い反射、ヘッドライトなどの光が当たっていませんか。	➡遮光できる板などを取り付ける。取付場所を変更する。
時々動作しない	●検知距離が10mを越えていませんか。	➡10m以内になるよう、施工し直す。
	●電源電圧が不安定になっていませんか。	➡電源電圧を適正にする。
投・受光器は動作するが、接続機器が動作しない	●接続機器への配線が断線または短絡していませんか。	➡配線の断線または短絡を直す。
	●端子のゆるみはありませんか。	➡ゆるんだ端子を締め直す。

パナソニック電工株式会社 HA・セキュリティ事業部　〒514—8555 三重県津市藤方1668

© Panasonic Electric Works Co., Ltd. 2008

8A1 720 00001　M0595-10708Y